のは、絶望の状態のままで如来さまに救われるようになっているのに、

その不思議な事実を知らないままで死んでしまうことが多い

　　　　　　　　　　　　　　大峯顕先生（１９２９年生～２０１９年没）奈良県専立寺前住職

「天国と浄土」

　　お葬式に参列したとき、弔辞を拝聴していますと、「天国で安らかにお眠りください」とか「天国に行って私たちを見守っていてください」などおっしゃるのを聞いて、おかしいなと思うことがよくあります。今の日本人は、死んだら天国へ行くと考えているひとが多いのでしょうか。わたしは「天国ってどんな所なんですか？」と聞いてみたくなります。

天国というのは神（GOD）の国のことで、キリスト教で死んだら神に召されると考えられている国でしょう。それなの

に、お坊さんにお経をあげてもらいながら「天国」とおっしゃるのは、ちょっと失礼な話なのです。日本人は生れたときは神社にお参りして柏手を打ち、結婚式は教会風に「アーメン」、死ぬときはお坊さんにお経をあげてもらうというようなことがまかり通っていますから、そんなことに目くじらを立てる方がおかしいのかもしれません。でも、せめて浄土真宗の御門徒さまには天国ではなくて、お浄土と言ってもらいたいものです。それに、天国天国と気安く言っていても、みなが皆天国に行けるとは限らないみたいです。最後の審判というのがあって、神が天国行きか、地獄行きか審判して、生前の行いによっては地獄行きを宣告されることがあるらしいです。にわか信者がおいそれと天国に行けるわけがないのです。そんなことも知らずに天国へ行くつもりなのでしょうか？　その点、浄土真宗は、今元気に生きているうちにお浄土行き間違いなしにしていただけるというのですから、これほどありがたい教えはないでしょう。浄土真宗の人はみなお念仏を称えたらもれなくどんなひともお浄土へ生まれさせていただけます。無条件です。天国とお浄土ではどちらがありがたいか、天国とは神の国、お浄土は仏さまの国でお坊さんにお経をあげてもらうなら、当然お浄土でしょう。天国に行きたい人は神父さんか牧師さんを呼ぶべきでしょう。よろしくお願いします。

さて、皆さまは死んで天国に行きますか？浄土へ行きますか？どちらでもよいという人は迷子になって宇宙をさまようことになりますから孤独と不安が永遠につづくことでしょう。お浄土に生まれたら、すぐ仏になって、娑婆に戻って、子や孫を救う仕事が与えられます。じっとなんかしておれません。安らかにお眠りなんかできません。仏さまは衆生済度にいそがしいのです。 なむあみだぶつ　なむあみだぶつ　　　 　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　法喜

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　